

2024年度 学校関係者評価委員会報告書

学校法人第一平田学園 中国デザイン専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人第一平田学園 中国デザイン専門学校 関係者評価委員会は「2023年度学校自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を2024年8月28日(水)に実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

名 前	所 属
藤若 典弘(委員長)	卒業生：有限会社ヴィジョンイメージファクトリー 代表取締役
丹羽 雅人	株式会社丹羽建築設計事務所 代表取締役
守屋 謙太郎	株式会社ケイズ・ユニット 代表取締役
藤原 敏嗣	famo. DESIGN STUDIO 代表
藤森 英樹	PATTERN STUDIO SYNERGY 代表
近藤 和	保護者：中国デザイン専門学校 教育助成会 会長

2. 実施方法、公表

学校関係者評価の実施にあたっては、年度末に実施した「学校自己評価報告書」を2024年度学校関係者評価委員会にて学校関係者評価委員の皆様にご説明し、学校自己評価の各項目に対するご意見と評価をとりまとめた。

評価結果は、今後の本校における教育活動や学生指導等の学校運営の改善にいかし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等に公表します。

3. 2024年度学校自己評価における学校関係者評価

評価 5. 完璧 4. かなり進んでいる 3. 普通 2. やや足りない 1. ほとんど進んでいない NA. 当てはまらない

4. 評価総括

○評価結果とその背景

評価委員総合評価は3.75ポイントで、昨年度(2023年度)とほぼ同数であった。順次、改善点を見出し取り組みを進めている項目もあるが、早急な対応がまだ不十分な部分もある。「基準4：教育成果」、「基準6：教育環境」の2項目に関しては今後改善に向けて対応が必要と感じた。

○今後の取り組み

キャリアセンターを設置し、就職対応から企業対応まで連携した専門部署を開設する。学科・専攻によって異なる就職活動内容や就職率の平均値を底上げするために、キャリアセンターを中心に在校生補助の強化が必要と感じる。様々な課題がある中で、デザイン専門学校としてアプローチを広げて、ポジティブに検討改善していけると感じている。特徴ある分野の学校として広く世の中にアプローチ、発信することが必要と思われる。

○課題の解決、改善結果の報告

IT系(情報処理・プログラミング)、3DCAD(アパレルシュミレーター)のカリキュラムを見据えた設備導入、環境整備を進めており、デジタルリテラシー教育と新しい力を持った人材育成に努めている。さらにグローバル人材の育成に向けた「アジア研修」「欧州研修」を実施し、文化や美術に触れる海外現地研修を進めることができおり、これからの新しい学校作りが進んでいると感じることができた。

2024年度学校関係者評価委員評価一覧

評価 5. 完璧 4. かなり進んでいる 3. 普通 2. やや足りない 1. ほとんど進んでいない NA. 当てはまらない

1 教育理念・目的・育成人材像など

点検項目	委員評価	問題点・改善事項
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4.0	長船新校長の新体制に依り、現場運営における目標の再設定がなされていると感じた。
1-2 学校の特色はなにか	3.6	長船新校長の新体制に依り、現場運営における目標の再設定がなされていると感じた。もっと、モノ作りの学校のアピールをしてもいいのでは。
1-3 学校の将来構想を抱えているか	3.6	長船新校長の新体制に依り、現場運営における目標の再設定がなされていると感じた。

2 学校運営

2-4 運営方針は定められているか	3.8	新体制による文面化が進められているように感じる。
2-5 事業計画は定められているか	3.8	新体制による文面化が進められているように感じる。
2-6 運営組織や意志決定機能は効率的なものになっているか	3.6	改善できる余地がまだあると感じる。
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3.0	
2-8 意志決定システムは確立されているか	3.5	よりよく改善できる下地を持っていると感じる。
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.5	よりよく改善できる下地を持っていると感じる。

3 教育活動

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3.8	教育課程編成委員会を通じて、全科とも共通認識を持っている。
3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育機関を勘案して、達成することが可能なレベルとして、明確に定められているか	3.6	カリキュラムポリシーを掲げ、修学目標や到達目標を明文化できている。
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	3.6	科目関連図を通じて、在学生へ開示できている。
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	3.6	科目関連図を通じて、在学生へ開示できている。
3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか	4.0	各開講期末にて評価日を事前に定めている。
3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.6	
3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4.0	各開講期末にて成績評価会議を開催している。
3-17 資格取得の指導体制はあるか	4.0	
3-18 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	3.6	

基準4 教育成果

4-19 学生の就職に関する目標を達成したか	3.5	学科・専攻によって目標達成率が異なっている。
4-20 資格取得に関する目標を達成したか	3.3	資格取得数は少ないと思われるため、今後の改善点と思われる。
4-21 退学率の低減に関する目標を達成したか	3.3	一定数の退学者がいるため改善の余地はある。
4-22 卒業生・在校生は社会で活躍し、評価を得ているか	4.0	人材変動の高い業界であるが、県下においては、それぞれの業種で、依然大きな活躍をなされていると感じる。

基準5 学生支援

5-23 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	3.5	整備が進められていると感じる。
5-24 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	3.5	整備が進められていると感じる。
5-25 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	3.8	特待生制度の整備がやや必要に感じる。
5-26 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	3.8	
5-27 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	3.6	
5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3.0	特定の制度等はない。
5-29 保護者と適切に連携しているか	4.0	保護者からの信頼・評価は高いと感じている。
5-30 卒業生への支援体制はあるか	3.5	

基準6 教育環境

6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか	3.1	順次アップデートがなされていると感じる。
6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.5	海外研修対応の授業が展開されている。
6-33 防災に対する体制は整備されているか	4.0	新学期にて教職員・在学生への防災訓練が行われている。

基準7 学生の募集と受け入れ

7-34 学生募集活動は適正に行われているか	3.6	学科により在籍者数が大きく異なることにより、パワーバランスが統一できていない。
7-35 就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍の教育成果は、学生募集に貢献したか	3.6	
7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4.1	特に問題事項はない。
7-37 学納金は妥当なものとなっているか	3.8	

基準8 財務

8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.8	
8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.8	
8-40 財務について会計監査が適正におこなわれているか	4.1	基準通りに情報公開がされている。
8-41 財務情報公開の体制整備はできているか	4.1	基準通りに情報公開がされている。

基準9 法令等の遵守

9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.1	
9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.8	保護規定は守られている。
9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4.1	学校自己点検が実施され総括公表もされている。
9-45 自己点検・自己評価結果の公開はしているか	4.3	基準通りに情報公開がされている。

基準10 社会貢献

10-46 教育資源を活かした社会貢献	4.0	
10-47 ボランティア活動の支援	4.0	
平均	3.75	

4.総評

昨今の社会全体での「少子化」「高騰化」「DX化」「売り手市場における就活」「Z世代への文化の変化」など、いろいろな事がコロナ禍を明けて一気に押し寄せているように感じる中、「教職員に向けた、現代の社会に対応した働き方」「これからの学生にとって、本当に役に立つ技術や知見の習得」「次世代の社会に向けたクリエイティブ人材の輩出」という難しい課題に対して、デザインの専門学校という教育現場としてどのようにアプローチできるのかをポジティブに検討しているように感じた。また、関連する「新校長による牽引への期待」「学校教職員の次世代に向けた若返り」などの検討・施策を垣間見ることができ、「これからの新しい学校」の像へと向かっていると感じ、期待が高まった。保護者を巻き込んだ、学生の全面的な支援体制はとも充実している。退学者の発生は残念であるが、十分なケアがなされた上での結果であり仕方ないことかと理解できる。学生の創作活動に直接影響を与えるネット環境なども、大きく改善されたようで、環境も理想の形に近づきつつある点が評価できる。海外研修など他の学校との違いを持ち、それが実際に学生に効果を及ぼしている点など評価されるべきである。全体的に目配りしながら地道に改善が続けられていると思います。デザインが得意な専門学校ということで、特徴が非常にはっきりした学校で、世の中全体でデザインが求められている部分が多いと思うので、その辺りを上手に発信して生徒の募集などの広報をしていけば、よりよくなると思います。実技の多い学校ということもあり、ITを活用した教育環境の整備という意味では、平均的な面があるので、学校関係者が外部の勉強会に参加するなどして、教育環境の変化に地道に対応していけば、よりよいのではないのでしょうか。それから、水野学さんの本にあるように、デザインをブランディングにどう活かすかについての全体講義があると、よりよいと思いました。